

特集

妊娠から子育てまでの切れ目のない支援

妊産婦や乳幼児が安心して健康な生活ができるように



前列左から／田上吉伸さん、田上梓さん。後列左から／保健師の安田未悠さん、助産師の本郷恵さん。

産前・産後ケア事業の実施

全国的に急速な少子化・核家族化が進み、近年はますます家族や社会のつながりが希薄化しています。そのような中で、不安を抱えたまま母親としての育児をスタートするケースもあり、政府は少子化対策として「産後ケア事業の強化」を提言しました。

良好な母子の愛着形成を促進するうえで、出産直後の1カ月間は最も大事な時期であり、さらには産後早期の親子関係が虐待や育児放棄の予防も果たすといわれています。

産後ケア事業を強化し、退院後の母子に対して心身のケアや育児のサポート等を行い、産後も安心して子育てができる環境や地域社会の仕組みづくりが求められているのです。

本町に居住している方は、釧路市等の産科がある病院に通いながら出産を迎え、入院中は助産師によるケアや助言が受けられても、退院後には支援が受けられなくなるという課題がありました。また、釧路市内の母乳相談室まで通う距離的な問題や、利用料（1回3千円程度）がかかるということもありました。そこで、妊娠・出産・



ほんごう・めぐみ
本郷 恵さん

役場保健福祉部
介護健康課健康相談係 主任

●白糠高校卒業後、釧路労災看護専門学校で看護師の資格を取得。労災病院に3年勤務後、道立旭川高等看護学院で助産師の資格を取得しました。令和2年4月1日から白糠町役場職員。妊娠中の苦労や産後の不安が少しでも楽になるよう務めたいと思います。

子育てまで、切れ目のない支援が提供できるように、今年度から介護健康課に助産師を1人配置しました。助産師の専門知識を生かし、産後のみならず、妊娠期からの支援も充実させ「産前ケア・産後ケア事業」として、利用者が何回でも無料で、気軽に相談できるような仕組みを整えました。
「産前ケア・産後ケア事業」は、利用者の家庭を訪問して実施しています。